



大泉西中学校だより

練馬区立大泉西中学校

校長 櫻井 弘

令和6年5月8日

第2号

「あいさつの力」

校長 櫻井 弘

皆さん、「大泉西中はどんな学校ですか？」と質問された時になんと答えますか。そんな時にプラスのイメージで紹介できる何かがあるといいと思いませんか？そこで、今年度みんなで頑張ろうとしていることが「あいさつ」です。以前、ある高校の先生が、次のような話をしてくれました。「面接試験では、ほとんどの受験生が、明るく丁寧なあいさつをしてくれます。しかし、控室で何人か先に待機している同じ立場の受験生に対してあいさつできる人は少ないものです。私は、そのようなあいさつができる生徒がいて、面接担当者に、“あの生徒さんは、控室でもしっかりあいさつしていましたよ。”と伝えるようにしています…。”という話です。面接担当者が、その情報を面接点に加味しているのかどうかは分かりませんが、あいさつやちょっとした対応で、私たちは、相手や周囲の人たちに、プラスの印象やマイナスの印象を与えることが少なくないのだということを教えられます。では、「あいさつ」にはどんな力や効果があるのか調べてみましたので確認していきましょう。

1 「あいさつをすると気持ちがいい」

あいさつは、するものもされるものも気持ちがいいものです。あいさつをしないということは、「気持ちいい」と感じるチャンスを自ら逃しているということです。

2 「あいさつをすると笑顔になるときが増える」

あいさつをするとき、人は無意識のうちに笑顔を作ります。あいさつをすると自然と笑顔が増える、これは大きなメリットです。あいさつをきっかけにして笑顔を増やしましょう。

3 「あいさつをすると人間関係もよくなる」

あいさつをしてもらえなかったり、あいさつをしたのに返事をくれなかったりしたとき、ムツとしたことはありませんか。あいさつをしないというのは相手を認めていない、反対にあいさつをするということは、その相手を認めているということになります。認められていると感じればうれしいものです。そして、良好な人間関係につながっていきます。

4 「あいさつをすると常識のある人に見られる」

あいさつというのは礼儀の基本であり、「常識がある人かどうか」を判断する一つの材料です。あいさつに技術はいりません。大きな声で笑顔で「おはようございます」と言うだけです。これだけで、「あの人はしっかりあいさつができて、とても常識のある人」と周りから信頼されます。

校内で元気に挨拶してくれる生徒、また、授業を見学に行くと授業中にもかかわらずあいさつをしてくれる生徒もいて、一日に何回も嬉しい気持ちになります。皆さんもあいさつに関して、自分なりの考えをもち、そして、大西中の良いところの一つに「あいさつ」も加えていけるように、日々主体的に実践していきましょう。

運動会に向けて

運動会実行委員会委員長

僕は今年の運動会を皆が楽しかったと言える思い出に残るものにしたいと考えています。そのために実行委員会をまとめ、全校練習等では声を出し全校の皆を引っ張っていきたくです。

皆さん、運動会を成功させるために、練習の時に自分の意見を出したり、実行委員に協力したりなどメリハリをつけて、一回一回の練習を無駄にしないように頑張りましょう。運動会当日は、結果的に勝敗がつきませんが、お互いの頑張りをたたえあえる運動会を創りましょう。

運動会では個人種目だけでなく、学年種目や学級対抗リレーなどクラスのチーム力が必要な種目もあります。息を合わせてゴールを目指すのは大変ですが、練習を積み重ねていくことで、本番では大きな達成感を味わいましょう。特に3年生の「大ムカデ」は足をつなぎ走るため、息が合わないとい進まず時には転倒してしまうので、強力なチーム力が必要ですしやり切った時の達成感もすごいと思っています。

1年生、2年生、3年生皆で協力し、思い出に残る運動会にしましょう。